

## 2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	視聴覚室 他
担当教員	早川 大輔	実務経験と その関連資格	非常勤医師として病院勤務の経験あり。			
《授業科目における学習内容》						
人体の神経系について、正常な構造(解剖学)を学ぶ。画像等を供覧し、病態生理の理解やリハビリテーションの実践に役立てられるように動機付ける。解剖学の指定教科書に沿い、生理機能、臨床的事項を補いながら講義を展開する。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験(筆記)100%で評定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【使用教材】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) 【参考図書・テキスト】・生理学テキスト(文光堂)・PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート(医歯薬出版)・PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート(医歯薬出版)・PT・OT必修シリーズ 消して忘れない 生理学要点整理ノート(羊土社) その他、適宜資料を配布する。						
《授業外における学習方法》						
教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキスト・配布資料などで理解を定着させる。						
《履修に当たっての留意点》						
初出の事項が多く戸惑うと思うが、丸暗記ではなく繰り返し復習して「理解する」ように努めてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系の基本的な構造が説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	神経系総論①(神経系の区分、構成)				
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	髄膜・脳室系の構造と機能を説明できる。 神経系の発生に関して説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	神経系総論②(髄膜・脳室系、神経系の発生)				
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脊髄の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	中枢神経系①(脊髄)				
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	延髄・橋の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	中枢神経系②(脳幹:延髄・橋)				
第5回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	中脳・網様体の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	中枢神経系③(脳幹:中脳・網様体)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	小脳の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系④(小脳)			
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	間脳の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系⑤(間脳)			
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	大脳辺縁系、大脳基底核の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系⑥(大脳辺縁系、大脳基底核)			
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	終脳の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系⑦(終脳1)			
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	終脳の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系⑧(終脳2)			
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経路とその機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系⑨(神経路1)			
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経路とその機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系⑩(神経路2)			
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明できる。 中枢神経系(脳および脊髄)や神経路の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	神経系総論・中枢神経系の総括①			
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明できる。 中枢神経系(脳および脊髄)や神経路の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	神経系総論・中枢神経系の総括②			
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明できる。 中枢神経系(脳および脊髄)や神経路の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	神経系総論・中枢神経系の総括③			

## 2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	視聴覚室 他
担当教員	早川 大輔	実務経験と その関連資格	非常勤医師として病院勤務の経験あり。			
《授業科目における学習内容》						
人体の神経系について、正常な構造(解剖学)を学ぶ。画像等を供覧し、病態生理の理解やリハビリテーションの実践に役立てられるように動機付ける。解剖学の指定教科書に沿い、生理機能、臨床的事項を補いながら講義を展開する。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験(筆記)100%で評定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【使用教材】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) 【参考図書・テキスト】・生理学テキスト(文光堂) ・PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート(医歯薬出版) ・PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート(医歯薬出版) ・PT・OT必修シリーズ 消して忘れない 生理学要点整理ノート(羊土社) その他、適宜資料を配布する。						
《授業外における学習方法》						
教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキスト・配布資料などで理解を定着させる。						
《履修に当たっての留意点》						
初出の事項が多く戸惑うと思うが、丸暗記ではなく繰り返し復習して「理解する」ように努めてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	末梢神経系の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	末梢神経系(脳神経及び脊髄神経)総論				
第17回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	脊髄神経①(頸神経)				
第18回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	脊髄神経②(頸神経)				
第19回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脊髄神経系(胸神経、腰神経)の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	脊髄神経③(胸神経、腰神経)				
第20回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脊髄神経系(腰神経、仙骨神経)の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
	各コマにおける授業予定	脊髄神経④(腰神経、仙骨神経)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	脳神経①		
第22回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	脳神経②		
第23回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	脳神経③		
第24回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	自律神経系の働きについて説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	自律神経系の働き		
第25回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	皮膚の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	感覚器①(皮膚)		
第26回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	視覚器の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	感覚器②(視覚器)		
第27回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	平衡聴覚器などの構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	感覚器③(平衡聴覚器、その他)		
第28回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用 が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	神経系・感覚器系総括①		
第29回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用 が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	神経系・感覚器系総括②		
第30回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用 が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	神経系・感覚器系総括③		